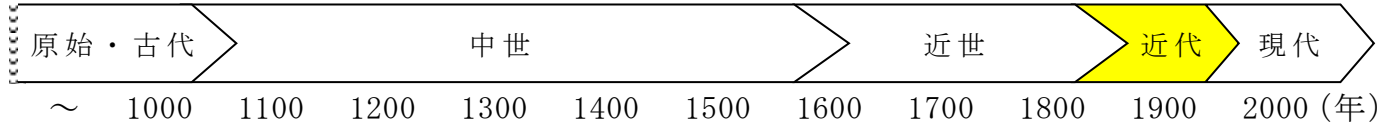


1 明治維新とひろしま いしん ~千田貞暁~ せん だ さだあき



1 千田貞暁とはどのような人物でしょうか？

広島市の宇品千田廟公園があります。この公園の一角に、フロックコートに身を包み、広島湾の方角を見つめる人物の銅像があります。この銅像の人物が千田貞暁（1836～1908）です。

千田は薩摩藩の武士の子として生まれ、明治維新後は、新政府の設立に関わり、各地の県令⁽¹⁾や県知事をつとめ、晩年は貴族院議員に就任しています。1880（明治13）年から1889（明治22）年までの約10年間は、広島県県令（後に県知事）として活躍しました。

千田は、宇品港を建設した人物であり、銅像の右手に握られているのは、宇品港（現広島港）の設計図です。様々な苦勞を乗り越えて建設された宇品港は、その後の広島産業を大きく発展させることとなるのです。



千田貞暁の銅像
（千田廟公園）



千田貞暁は、なぜ宇品に新しい港を築いたのでしょうか。また、宇品港は、どのように築かれ、後の広島にどのような影響を与えたのでしょうか？

2 千田貞暁は、なぜ宇品に港を築いたのでしょうか？

1880（明治13）年、広島県県令に着任するために、初めて広島を訪れた千田は、船の上から見つめた広島湾の印象を「河口海面一大砂漠ノ有様」と記しています。太田川が運んでくる土砂が広島湾内に大量に積もり、そのため、汽船は岸まで近付くことができず、しかも、沖合の宇品島（現在の元宇品、かつては島でした）で乗り換えた小舟も、満潮にならなければ出発できないといった状況でした。

当時は、明治政府によって、産業の近代化や活性化を図る殖産興業が積極的に推進された時代でした。製糸場や造船所などの官営工場が各地に建設され、人や物資を運ぶための鉄道が整備され始めようとしていました。

千田は、着任後県内を見て回り、広島産業が振るわな
いのは、原料や燃料、そして、生産された物資を円滑に輸送できないことに原因があると考えました。そして、広島産業を発展させるためには、まず物資の輸送が円滑に行われることが必要であると考え、宇品への新しい港の建設と、



千田貞暁
（広島市公文書館提供）

港に続く道路の改修を行うことを決意したのです。

3 宇品港はどのように築かれたのでしょうか？

千田からの要請を受けて、政府から派遣されたオランダ人の土木技師ムルデルは、実地調査を進め、次のような宇品港建設の計画をまとめました。

① 京橋川東側の皆実新開と宇品島の間
に約 2.2 km の堤防を築く。この堤防によって、河川から流れ出る土砂が宇品沖に積もるのを防ぎ、宇品島と金輪島の間を、大きな船の停泊場とする。

② 宇品島から堤防に沿って、広島市街に通ずる車道を造り、市街と海の交通を開く。

③ 皆実新開と宇品島の間
に、約 230ha の広大な干拓地⁽²⁾を築く。

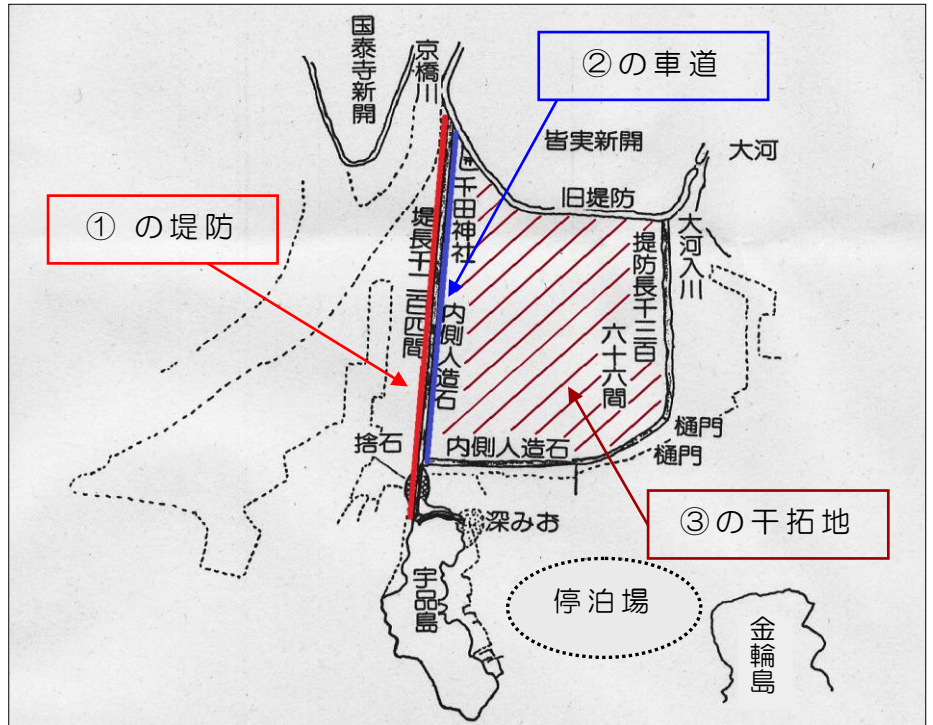
宇品港建設は、堤防を築

く、道路を建設する、干拓地を造成する、という三つの工事を合わせた大規模なものでした。

しかし、いよいよ工事が始まる時になって、主に漁業をして暮らしていた周辺地域の住民の間で、激しい反対運動が起きました。それは、海が干拓地になることで漁業ができなくなったり、排水が困難になって植物の生育に影響が出たりすることへの反対の声だったのです。

これに対して千田は、住民の代表に説得を重ね、建設に関わる仕事に地元の住民を雇うことを約束して、ようやく反対運動はおさまりました。

1884（明治17）年、工事が始まりましたが、悪天候により堤防が壊れた上に、人件費、材料費の値上がりなど、建設工事は次々と困難に見舞われます。そのため千田は、国に何度も資金の援助を求めました。



宇品港計画図（「広島湾発達史」をもとに作成）

※点線は1982（昭和57）年当時の海岸線



完成した宇品港棧橋（広島市公文書館提供）

こうして、1889（明治22）年、当初の予算の三倍を超える30万円⁽³⁾を費やして、宇品港建設の大事業は完成しました。翌年の春、関係者を集めて宇品港の盛大な落成式が行われましたが、工事最大の功労者であった千田の姿はそこにはありませんでした。千田は、工事が遅れたことを理由に処分を受けて、新潟県へ転任するよう命じられ、完成したばかりの宇品港から船に乗り、10年間過ごした広島を後にしていたのでした。

4 完成した宇品港は、後の広島にどのような影響を与えたのでしょうか？

長い年月と多額の費用を費やした宇品港建設でしたが、開港当初は、その価値が十分には認められず、この事業を「一大失策」とする意見も多かったといえます。しかし、開港から5年後の1894（明治27）年に、山陽鉄道（現在のJR山陽本線）が広島駅まで開通し、さらに、同じ年に始まった日清戦争のための軍事専用鉄道として、広島駅から宇品港までの宇品線が開通します。このため、宇品港は、兵隊や軍事物資の輸送など、軍事輸送基地として重要な役割を果たすこととなります。宇品港は、日本全体にとっても重要な港となるのです。

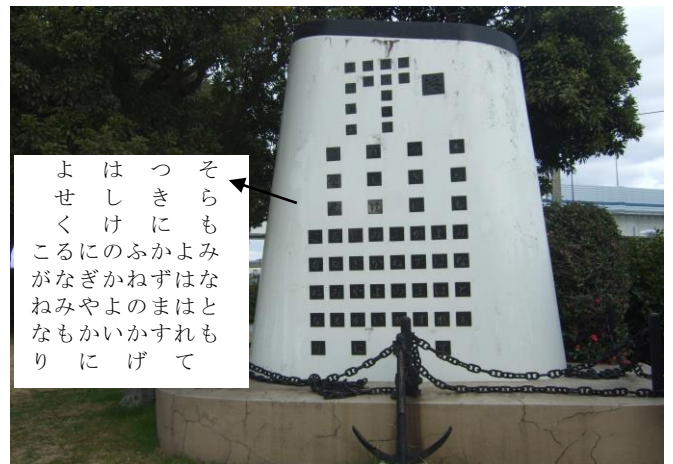
さらに、1897（明治30）年には台湾への定期航路、1905（明治38）年には清国との定期航路が開かれるなど、宇品港は大小の船が立ち寄ってにぎわいを見せるようになり、宇品港の建設は、その後の広島の産業の発展の基礎となりました。

次の歌詞は、宇品港の開港から7年後の1896（明治29）年に発表され、宇品港がモデルとされている「港」という歌の一節です。この曲は、後に小学唱歌として音楽の教科書に掲載され、全国の小学生に親しまれました。宇品港が、日本を代表する港の一つであったことが分かります。

～港～

「空も港も夜ははれて
月に数ます船のかげ
端艇の通いにぎやかに
寄せくる波も黄金なり」

（作詞 旗野十一郎，作曲 吉田信太）



よはつそ
せしき
くけにも
こるにのふかよみ
がなぎかねずはな
ねみやよのまはと
なもかいやすれも
りにげて

港 歌碑（宇品中央公園）



千田貞暁が宇品に新しい港を築くことを決意した理由や、宇品港がその後の広島に与えた影響について、調べたことや考えたことをもとに自分の言葉でまとめてみましょう！

【注】

- (1) 1871（明治4）年の廃藩置県により、政府が任命した県の長官。1886（明治19）年からは県知事と改称された。
- (2) 遠浅の海や水深の浅い湖沼を仕切り、その場の水を抜き取ったり、干上がらせたりするなどして造成された陸地。
- (3) 当時の米俵1俵（60kg）を政府が農家から買い入れる価格が2円であったといわれる。

【もっと調べてみよう！郷土の歴史】

- 宇品港周辺に実際に行ってみよう！
 - ・5ページの地図の場所は現在はどうなっているのでしょうか。
 - ・宇品周辺にある史跡や碑にはどのようなものがあるのでしょうか。
- 現在の宇品港が果たしている役割を調べてみよう！
- 身近な地域の明治維新に関係する出来事を調べてみよう！
 - ・道路の拡張工事（可部～浜田，可部～松江，尾道・三次～松江など）
 - ・港の浚渫（深く掘り下げること）（尾道） ・養蚕の技術伝習所（福山）
 - ・茶の技術伝習所（能美島） ・乳牛の飼育の奨励（県北） など
- 明治の教育や政治に関わった郷土の人物を調べてみよう！
 - ・窪田次郎（自由民権運動，医師）（福山市）
 - ・古川節藏（教育，慶応義塾初代塾長）（北広島町） など

◇広島市郷土資料館

住所 広島市南区宇品御幸 2-6-20 TEL：082-253-6771 HP

※宇品港建設の工事計画，人造石工法，港の様子や新しく開けた土地の発展の様子などが紹介されています。

◇千田廟公園

住所 広島市南区宇品御幸 1-8

※大正時代に建てられた，千田貞暁をまつる千田神社をはじめ，貞暁の銅像などが敷地内にあります。

【もっと知りたい！郷土の歴史】

その後の宇品と広島

宇品港建設の様子をはじめ，広島の人々の暮らしに関わる歴史をテーマにした「広島市郷土資料館」は，赤レンガの建築物として有名です。この建物は，もともと「宇品陸軍糧秣支廠缶詰工場」として建てられました。これは，広島が陸軍の拠点都市として発展していく中で，兵士の食料や軍馬のエサを調達・製造し，軍に補給するために建設された工場です。牛肉の缶詰が製造されていました。また，宇品地区や，広島市内の周辺地域には，その後も，陸軍兵器支廠，陸軍被服支廠，陸軍運輸本部，陸軍船舶指令本部など，軍の工場や施設が設置され，太平洋戦争中には，不足した労働力を補うために，男女中学生をはじめ，多くの学生たちがこれらの工場で働いていました。

宇品港建設から山陽鉄道と宇品線の開通，日清・日露戦争を経て，太平洋戦争に至るまで，宇品の町は，その規模も様子も大きく変化していきました。



広島市郷土資料館